

東北縦貫自動車道埋蔵文化財発掘調査

牛袋・笠田遺跡概報

福島県文化財調査報告書第22集の7

昭和45年3月

日本道路公団
福島県教育委員会

序

本県は、原始時代の遺跡はもち論、関東との接点に位置するところから、古代の遺跡が特に多く、われわれの祖先の生活文化を、如実に物語っています。

東北縦貫自動車道の建設が計画されるや、これら文化財の適正保存をはかるべく、昭和41年より分布調査を実施いたしました。これにより、極めて重要なものについては保存をはかり、記録保存すべきものについては更に予備調査を実施して資料を整え、最終的に50余カ所の遺跡を発掘調査することになりました。

本事業は、3年計画のもとに進め、本年度はその初年度にあたり、13の遺跡について8次にわたる発掘調査を実施し、予定通り終了をみてその調査概報を発行するはこびとなりました。もとより概報でありますので、不じゅうぶんなものではありますが、学術資料としてご活用いただければ幸いです。

本調査に際し、ご多忙の中、発掘にあたられた調査員各位、郷土の文化財保存の熱意からご援助下さった協力者の方々、並びに調査の運営に、全面的ご協力を惜しなかつた市町村教育委員会をはじめ、関係各位に厚くお礼申し上げます。

昭和45年3月

福島県教育委員会教育長

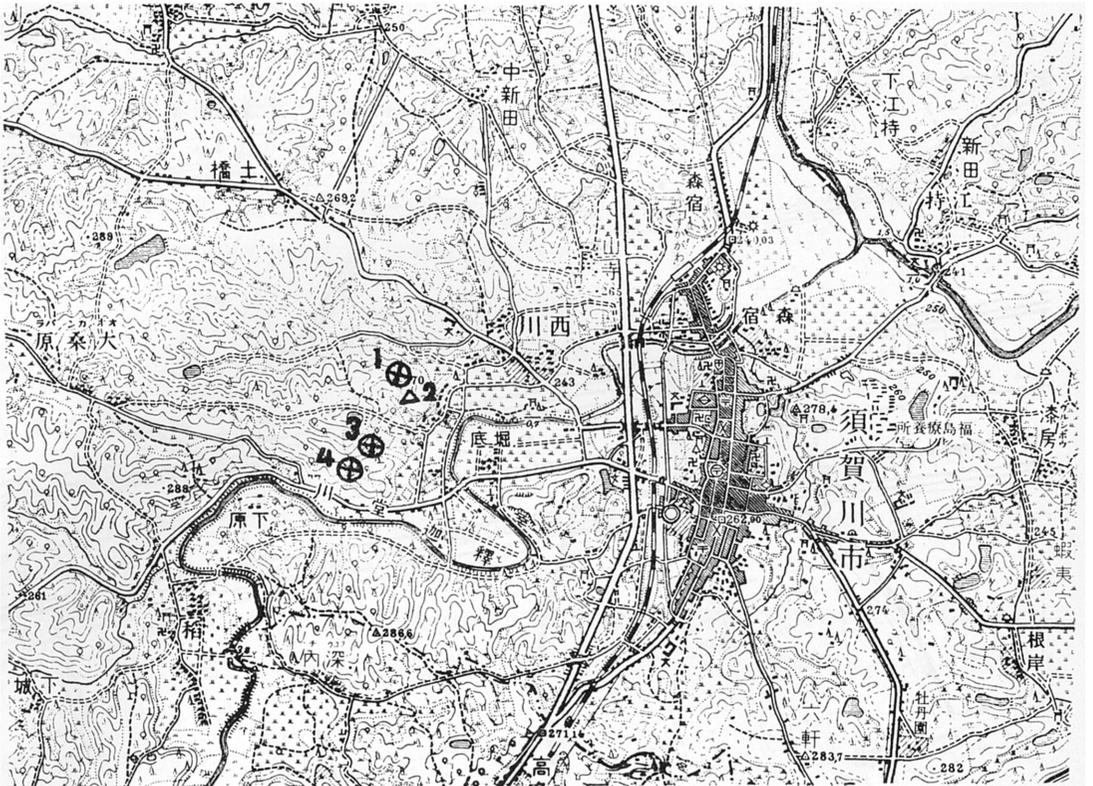
三 本 杉 國 雄

目 次

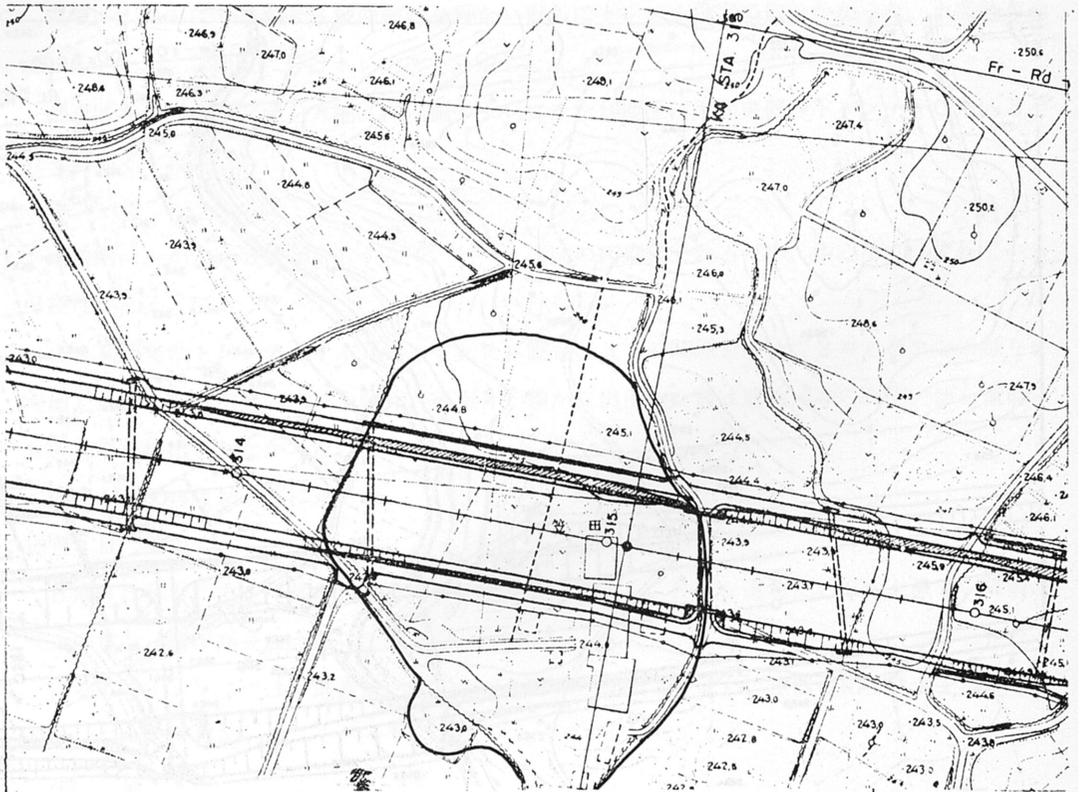
牛袋・笠田遺跡	3
1 調査経過	3
地形および付近の遺跡	3
調査日誌	3
2 調査の概要	4
地 形	4
遺 構	4
遺 物	4
3 考 察	4
梅 田 遺 跡	5
1 調査経過	5
日 誌	5
2 調査概要	6
地形および立地	6
遺 構	6
遺 物	6
3 考 察	6

凡 例

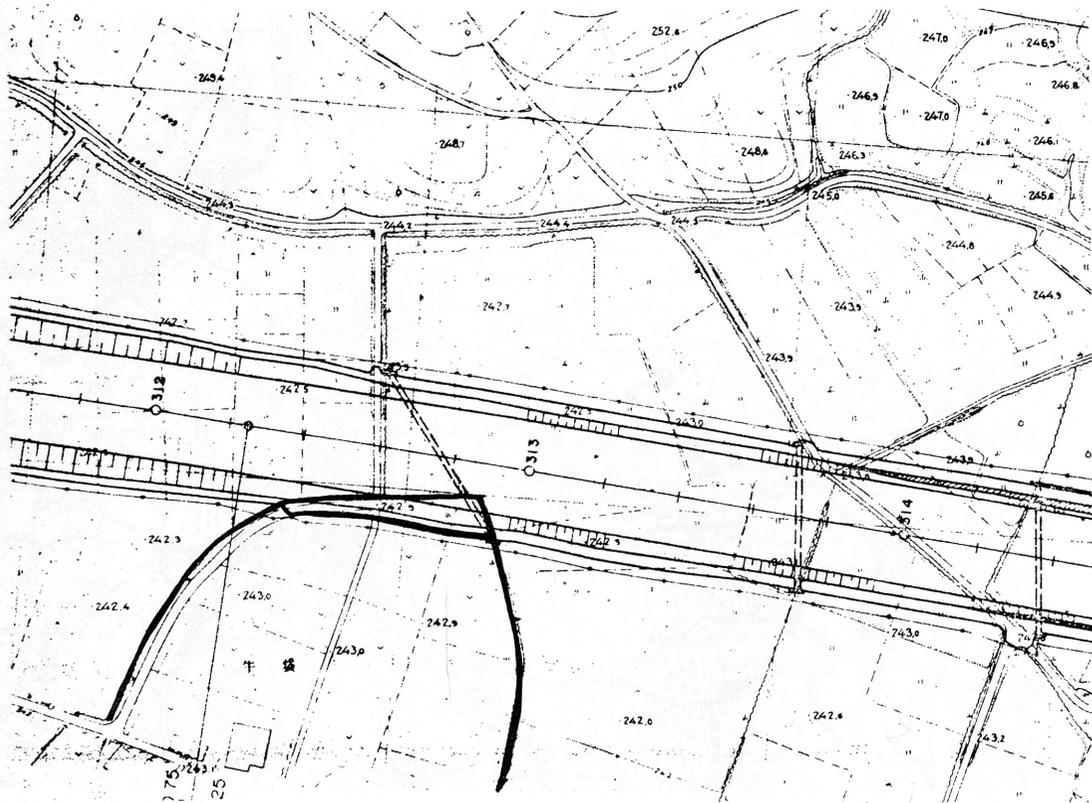
- 1、この発掘調査は、日本道路公団と委託契約を結び県教育委員会が発掘調査を実施したものである。
- 2、概報なので、原則として実測図は付さず、出土品も未整理のものは省略した。
- 3、全体計画終了後、報告書として一括して刊行する予定である。
- 4、執筆は、担当者・調査員・参加者などが分担したものもある。図面・写真も同様である。
- 5、出土品は、県及び関係市町村教育委員会で保管している。
- 6、編集は、事務局職員が担当した。



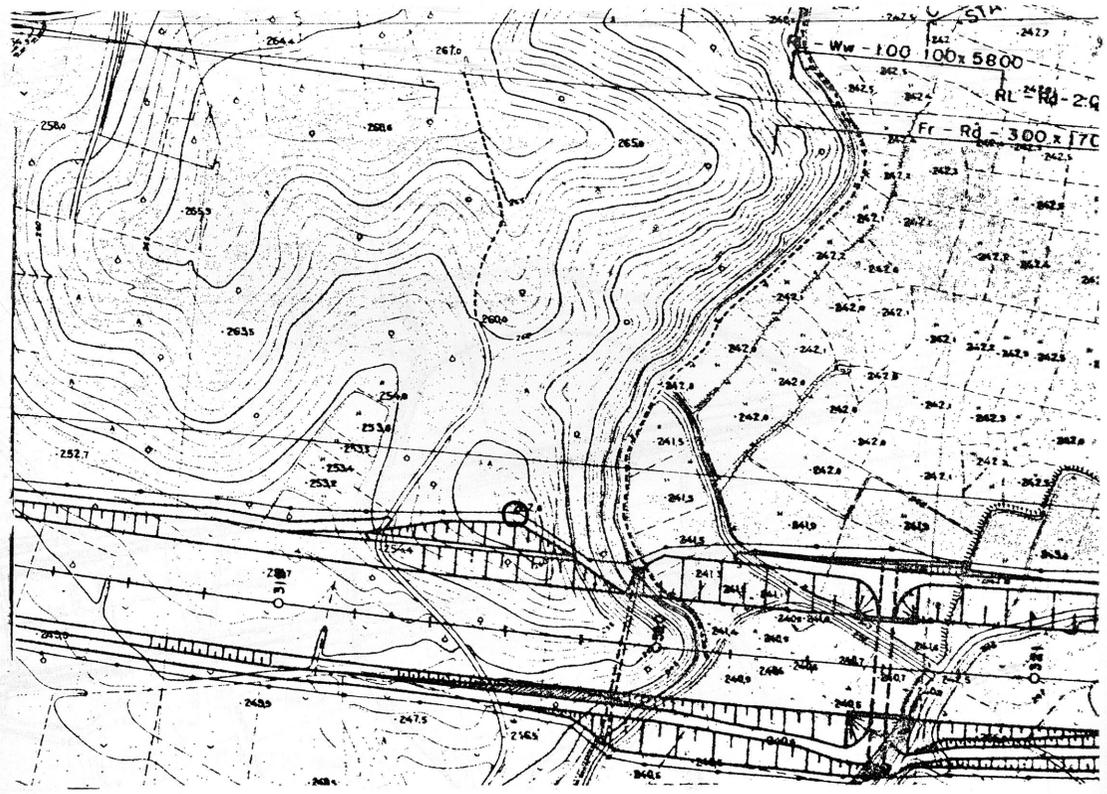
1. 梅田遺跡 2. 梅田横穴群 3. 笠田遺跡 4. 牛袋遺跡



笠田遺跡



牛袋遺跡



梅田遺跡

所在地 須賀川市西川字牛袋・笠田
調査期間 昭和44年12月3日～8日
調査主体 日本道路公団、福島県教育委員会
調査担当者 鈴木 啓
調査員 村川友彦・藤田定興・小針陸雄・武田奥一
協力機関 須賀川市教育委員会、須賀川市役所西袋支所

牛袋・笠田遺跡

1 調査の経過

(1) 地形および付近の遺跡

現地は、須賀川市西方を西から東に流れる釈迦堂川左岸に近く、盆地と丘陵の境の緩傾斜地の末端に位置する。現在は、水田および畑地に利用されている。

牛袋は、笠田遺跡の南方200mの地点にあり現在畑地および宅地に利用されている微高地上にある。現地より北方約1kmには土師器を散布する孤石遺跡等があり、周囲にはその他の遺跡が存在する。

(2) 調査日誌

12月3日 笠田

現地に天幕をはり、調査区域の検討を行ない直ちにトレンチ設定に取りかかった。土器散布範囲が広いので、3地区に分けてトレンチを設定した。

調査区北側のトレンチをA地区、南側のトレンチをB地区、中間東側のトレンチをC地区とそれぞれ命名した。

牛袋

路線内にかかる区域が40㎡しかなく、しかも遺跡の西端部であるため、中心よりはずれている可能性がある。

2m×25mのトレンチを1本(Aトレンチ)設定、3mの間隔をおいて2m×2mの枡掘りを実施した。-40cm迄の間に、土師片、須恵片が僅かに出土した他は遺物がみられず、何ら遺構らしきものも検出されなかった。

地表から60cmで粘土層に達した。

12月4日 笠田

B地区に移り、巾1m長さ10mのトレンチを10本設定し、作業を進めた。しかし激しい降雪のため作業は一時中断せねばならなかった。

南寄りのトレンチでは、地表から約30cmで地下水が湧出し、また、土器の出土は全く無かったため、C地区に移動した。

牛袋

雪のため、作業がはかどらず、牛袋の作業を中断し、笠田地区を重点的に発掘した。

12月5日 笠田

前兩日の結果を考慮し、C地区の作業を進めた。幅 $2\text{ m} \times 2\text{ m}$ の柵掘りを 3 m 間隔に実施したが、地表および、耕作土層中から土器片がごく僅か出土したのみで、遺物は全くみられなかった。このため全トレンチを完掘した後、実測に取りかかった。

牛 袋

3日に掘り残したAトレンチの柵掘りを行なう、さらにAトレンチの西に $1\text{ m} \times 20\text{ m}$ のトレンチを設定し、完掘した。その結果、遺構は全くみられず、わずかに数点の土師片が出土したにすぎず、発掘調査を打ち切った。

2 調査の概要

(1) 地 形

丘陵末端部の緩傾斜を有する地点で、笠田は比較的地盤面が浅く、地表から、約 $40\text{ cm} \sim 50\text{ cm}$ 程度の深度で地下水が湧出する状況である。

牛袋地区は、地盤面が深く -60 cm に達する。現在は、水田、畑地、宅地に利用されているが、宅地は、緩斜面の比較的高い場所を利用している。

(2) 遺 構

笠 田

A、B、C各地区ともに地盤まで露出して精査したが、土師器に伴う住居跡と思われるものは検出されなかった。特にB地区の南側においては、地表から 30 cm の深さで地下水が湧出しA、C地区においても、 40 cm 程度と非常に浅く、遺物も全くみられず、何ら遺構らしきものは検出されなかった。

牛 袋

遺跡地を南北に縦断するトレンチ掘りによっても、何ら遺構らしきものが見当らず、特記すべき点もない。

(3) 遺 物

笠 田

全トレンチからの出土遺物は全て、地表または耕作土層中からのもので、土師器片が数点出土したのみである。内黒の特徴を見るものが少々あるが、殆んどが非常に摩滅して器形を知ることのできるものは全く無い。

牛 袋

土師器片数点、須恵片2、弥生片1。

土師片に坏型土器を推定せしむる内黒土師片1、1個は、口縁部で小形壺型土器と思われる。その他は、内外赤褐色を呈し、須恵片とも器形は推定出来ない。

3 考 察

笠 田

本調査地域においては、地形的にみても不透水層である地盤面が浅く、地下水が湧出する状況であるため、現在の状況からは、住居跡の立地条件としては不適当な場所を考えられる。地表および

耕作土中からの土師器細片の出土は、おそらく他地域から流されてきたものと推定され、西寄りの高い場所が遺跡の中心と思われる。

牛 袋

弥生、土師片の土器散布がみられることによるならば、この徴高地が遺跡地であることは疑わないが、中心をはずれていたらしい。

遺跡の中心はもっと東、現在宅地となっているあたりで、土器片はそこから流れたものであろう。

遺物の出土状態は乱出で層位をなさず、長年の耕作中に耕作土と一緒に混入したものらしい。遺構の痕跡もみられなかった。 (笠田地区、村川友彦、牛袋地区藤田定興)

梅 田 遺 跡

1 調査経過

遺跡地は、須賀川市西川字梅田にあり、東北縦貫自動車道、路線内の予備調査において、径11m、高さ2mの円墳として報告されたものである。墳丘の頂上部には盗掘坑があり、九月中梅田横穴古墳発掘の際見分して、ここより2個の土師器片を採手した。

遺跡は、東北縦貫自動車道の路線工事によって、マウンド頂上部から東側半分が切断されるために、発掘調査を実施した。

日 誌

12月6日

前日の夕方、下見分をして必要な道具類の割当を決めておいたので、樹木伐採と、下草刈の準備は整っていた。

伐採と下草刈に並行して、墳丘の実測と写真撮影を行なう。墳丘築成状況観察の為、先ず周溝検出作業を行なった。東西南北が直交する1m巾のトレンチを4本設定し、周溝を追ったがみられず、腐植土層は僅かに2cmで、淡黄色の粘土層に達した。トレンチは、マウンド上にも延長した。初め、トレンチ掘りによる墳丘観察を行ったが、る表土を除去し終わった段階で止め、東西は南側、南北は東側に、幅50cmのアゼを残して全面を剥ぎとる方法に切り代えた。この結果表土は、茶褐色土層で、30～40cmの層をもち、次に、粘土混りの茶褐色土層に達することがわかった。北側トレンチは、盗掘溝にあたるが、この盗掘溝より、鉄片数点が出土した。表土内からは、須恵、土師の破片が、多数散出した。これは、マウンド造築の際、遺跡地の土を盛土したことによるものではないかと推測された。

12月7日

前日残した表土剥ぎを続行。初めに掘った1m巾のトレンチを掘り下げ、さらに下層の様子をみる。土は締っていて堅く、唐鍬を使用するほどで、ますます古墳としての見方は弱まった。このため、トレンチ溝を一気にマウンド最下層迄掘り下げることにした。同様に、マウンド中央北側にも、東西トレンチとはT字形をなすトレンチを下ろした。このように締った堅い層からも遺物は相変らず出土している。古墳らしき何らの痕跡も発見出来ない。

12月8日

午前中、昨日のトレンチ掘りを続行し、マウンドを清掃する。トレンチ内、墳丘の最下層より新しい犬釘が出土したため、完全に後世の造築であることが確認された。マウンド内部には、何らの遺構らしきものがみられないことから、これ以上広げる必要性を認めず、写真撮影とマウンド断面実測を行って調査を打切った。

2 調査概要

(1) 地形及び立地

本遺跡は、西川荒屋敷から北に張り出した舌状丘陵の尾根の、最も高い部分に位置する。尾根には、北側をのぞいて、西南部から、東北部に延びる平坦地があり、その地からみる付近の眺望はよい。遺跡はこの平坦地のほぼ中央に位置する。遺跡の50m東、本丘陵の末端部には、9～10月にかけて発掘調査の行なわれた梅田横穴古墳がある。

(2) 遺構

マウンドは、直径11m、高さ2mの円形で、断面をみると約10層からなる縞模様をなし、どの層も、粘土と、黒褐色土、または茶褐色土との混合したものである。表土は約40cmあり、他の層も20～40cmの厚さをもっている。周溝はない。古墳と思われる遺構は全く見い出せなかった。

(3) 遺物

土師片50、須恵片57、鉄釘1、その他不明鉄片14、砥石1が出土。

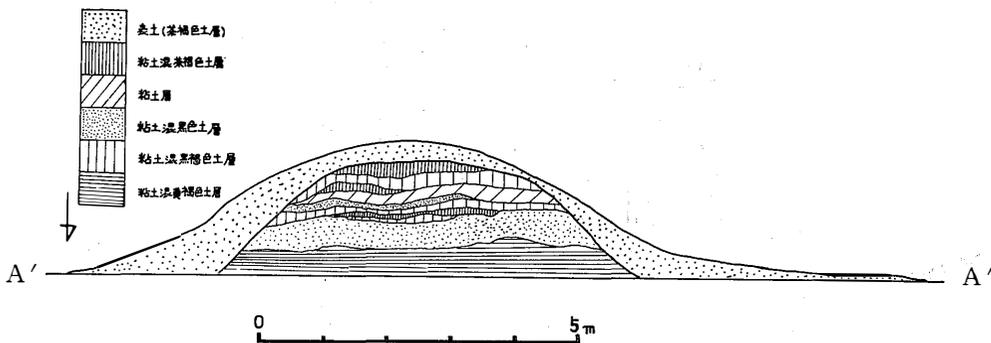
出土状態は一定しておらず、表土、及び盛土層より散出した。

土師器破片50個。内外赤褐色を呈するものと、内黒のものがみられる。いずれも小片で、磨滅がはげしく、器面がもろくなっている。このうち、内黒の底部片が5個あり、平底をなしている。1個には糸切の痕が僅かに残っている。5個の底部片はそれぞれ坏形土器であるが、他の破片は器形推定が出来ない。須恵器破片57個。色調は淡青灰色をなすものと、チョコレート色をなすものに分けられ、前者には、強い格子叩き目文がある。口縁部破片には、内外にロクロ目が走り、僅かに釉痕のみられるものもある。

3 考察

初めの予想では、古墳とされていて期待も持っていたのであるが、古墳とは断定出来なかった。

梅田遺跡断面実測図



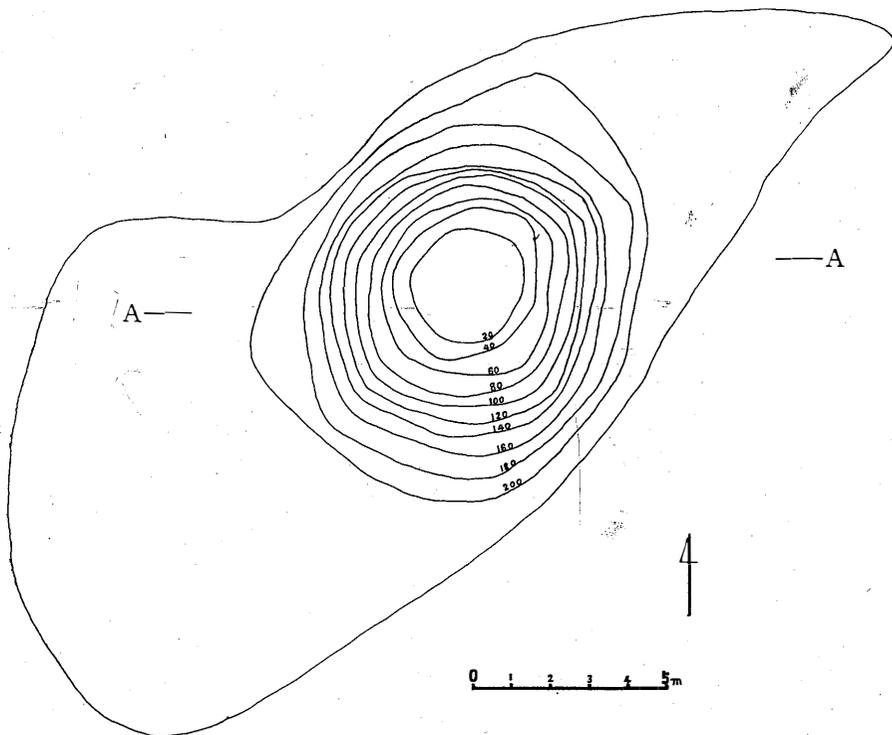
即ち

- ア 遺構に古墳と思われるものがない。
- イ 出土した土師、須恵片は、マウンド内部のどの層からも出土しており、遺物とマウンドは直接の関連がない。
- ウ マウンド最下層より新しい犬釘が出土している。
- エ 遺物中の須恵片の1つに、「山の神」と線刻されたものがみつかり、あるいは信仰対象の造成物とも推量される。

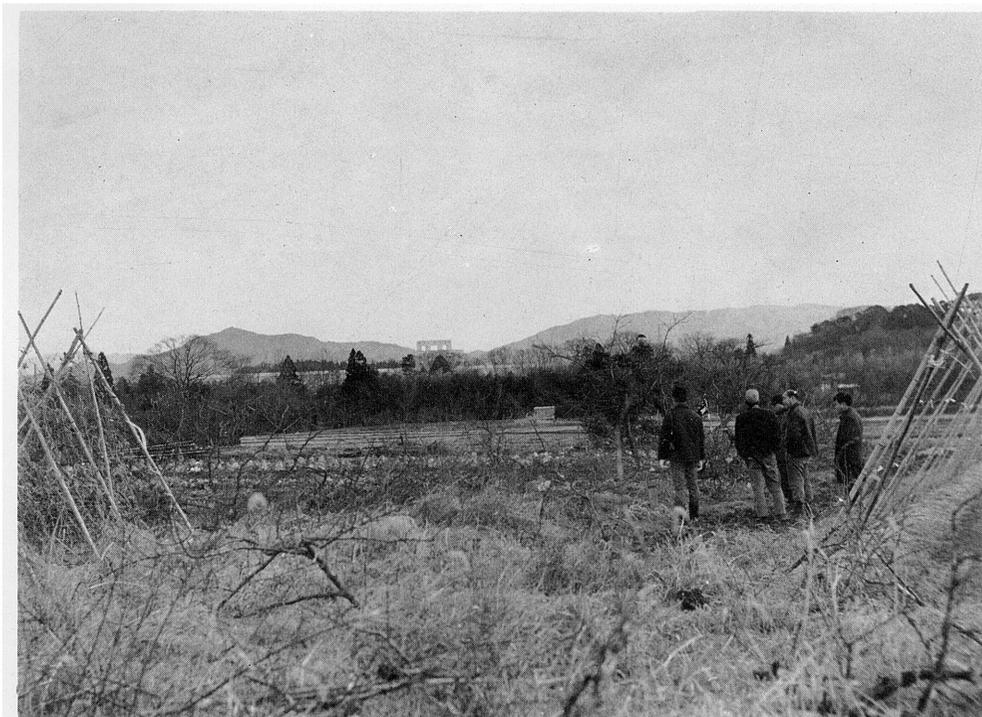
以上のことより、古墳とは考えられないが、この種のマウンドの性格を握む良い資料である。

(藤田定興)

梅田遺跡実測図



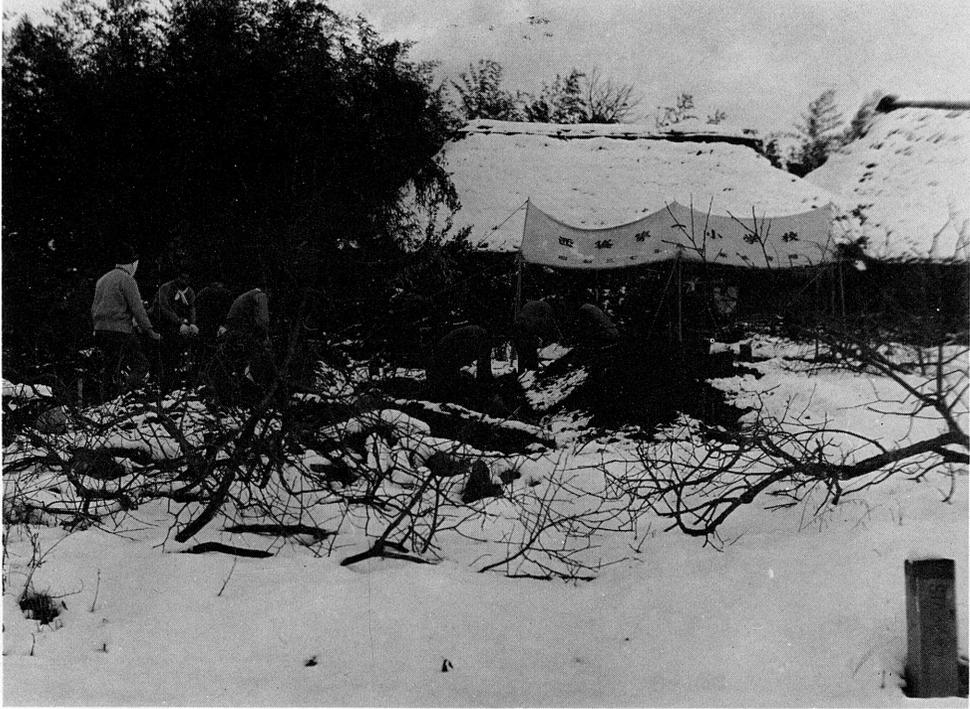
※ なお、梅田遺跡は、梅田横穴の調査と同時に展開する計画であったが、地主の了解が得られず牛袋・笠田遺跡に含めて調査することになったものである。



笠田遺跡



牛袋遺跡



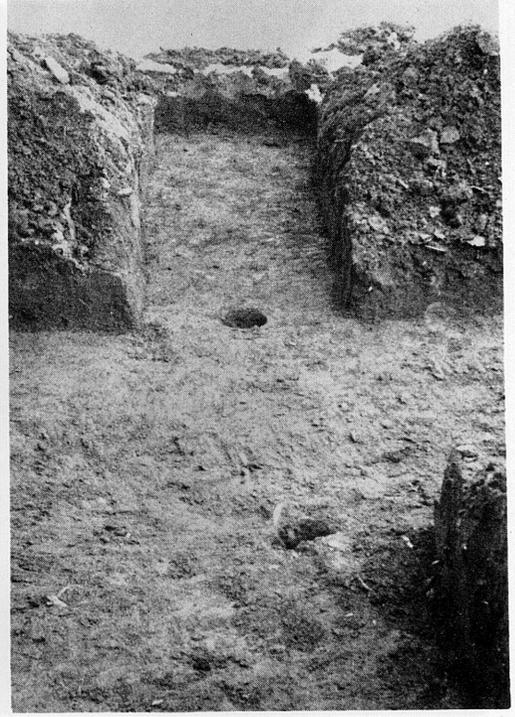
笠田遺跡発掘状況



牛袋遺跡発掘状況



笠田Aトレンチ (北から)



(西から)



(西から)



梅田遺跡全景



作業状況



梅田遺跡（東南から）



同（東から）

昭和45年3月15日印刷

昭和45年3月31日発行

福島県教育庁社会教育課

福島市杉妻町2-16

印刷 小浜印刷株式会社

福島市陣場町9-3